

- 1 アスベスト処理工事一般共通事項
- 2 アスベスト含有分析調査

留意事項

- 本工事は、アスベスト含有のおそれのある保温材、ダクトパッキン等を撤去する工事が含まれる場合に適用する。設備改修に伴う、アスベスト含有材への開口などの小規模改修工事は本仕様書に準じて行うものとする。
- アスベスト処理を所管する行政庁の指導がある場合は、それによるものとし、監督員に報告し協議する。
- この工事においては、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」（平成31年版）（以下「改修標準」という）による。

分析によるアスベスト含有建材の調査
・ 行う（下表による）

材 料 名	調査方法（1材料あたりの試料数：3サンプル）
	※ 定性分析 ・ 定量分析

採取箇所 ※ 図示

分析対象

※ アスベスト 6 種類（アモサイト、クリソタイル、クロシドライト、アクチノライト、アンソフィライト、トレモライト）

調査方法・分析方法

※ JIS A 1481 規格群（1481-1, 2, 3, 4）「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」に準拠する。

分析結果については、監督員に提出すること。

- 3 アスベスト粉じん濃度測定

アスベスト粉じん濃度測定
・ 行う（測定名称及び測定点は下表による）
測定箇所 ※ 図示

適用			測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業ごと)	備考
Ⅰ-β#1	Ⅰ-β#2	Ⅰ-β#3					
○	○	・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	※各2点・各3点	
○	○	・	測定 2	処理作業前	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点	
・	・	・	測定 3	処理作業中	処理作業室内	各2点	
○	・	・	測定 4	処理作業中	セキュリティゾーン入口	各1点	空気の流れを確認
○	・	・	測定 5	処理作業中	負圧・除じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)	各1点	除じん装置の性能確認
○	○	・	測定 6	処理作業後	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点	
○	○	・	測定 7	処理作業後 (隔離シート撤去前)	処理作業室内	各2点 (Ⅰ-β#3は1点)	
○	○	・	測定 8	処理作業後	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点	
・	・	・	測定 9	処理作業後 (シート撤去後 1週間以降)	処理作業室内	各2点 (Ⅰ-β#3は1点)	
・	・	・	測定 10	処理作業後	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点	

アスベスト粉じん濃度測定方法

アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K 3850-1:2006 空気中の繊維状粒子測定方法—第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」の「6.2 位相差・分散顕微鏡法」による。
測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

計数機器	位相差・分散顕微鏡	測定 1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10	測定 5
ノズル径の直径	25 mm		47 mm
試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	10 l/min
試料の吸引時間	5 min	120 min	240 min
試料の透明化	アセトントリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法		
計数条件	総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野		
計数アスベスト	直径(幅) 3μm未満、長さ 5μm以上、長さ直径比 3:1以上の繊維状物質		
定量限界	50 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l

報告書の作成（記録する項目）

- ア、測定結果
- イ、測定時間
- ウ、測定位置（測定高さとともに図面に記載する。）
- エ、サンプリング条件（メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量）
- オ、マウンティング方法
- カ、顕微鏡視野面積、計数視野数
- キ、測定時（各測定場所ごと）天候、温度、湿度、外気の風速及び風向
- ク、周辺地形や捕集時の状況を撮影した写真

- 4 7μm²以上含有吹き付け材の撤去（レベル1）

アスベスト含有吹き付け材の除去 [9.1.3]
・ 行う 除去方法は9.1.3による他、除去の部位・内容に応じた除去は専門工事業者の仕様とする。

除去物及び汚染物質等

処理方法
・ 行う
※ 密封処理（二重袋梱包）
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん機フィルタについても密封処理を行う。
・ セメント固化

処理を行う吹付けアスベストの仕様

材 料 名	厚さ (mm)	処 理 を 行 う 範 囲
		※ 図示 ・

- 5 7μm²以上含有保温材等の撤去（レベル2）

アスベスト含有保温材の除去 [9.1.4]
・ 行う
作業上の隔離
・ 行う
・ 行わない

処理を行う保温材等アスベストの仕様

材 料 名	厚さ (mm)	処 理 を 行 う 範 囲
		※ 図示 ・

- 6 7μm²以上含有成形板類の撤去（レベル3）

アスベスト含有成形板の除去 [9.1.5]
・ 行う
処理を行うアスベスト成形板の仕様等

材 料 名 (製品名)	含有するアスベストの種類	処 理 を 行 う 範 囲
・		※ 図示 ・

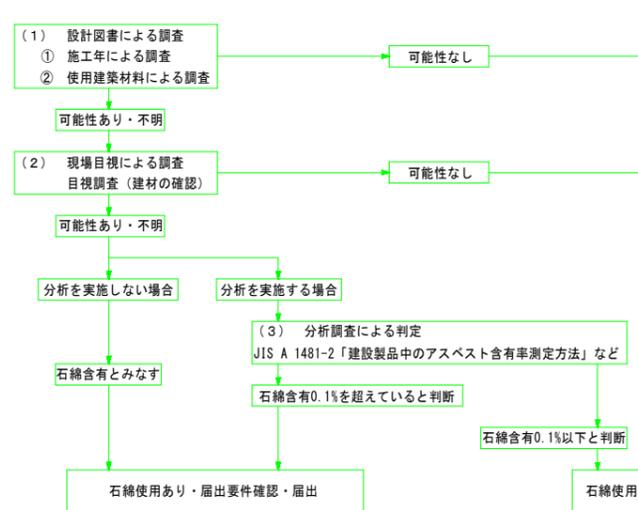
2 非石綿部での切断による除去

・ 行う
処理を行うアスベスト含有物の仕様等

材 料 名	含有するアスベストの種類	処 理 を 行 う 範 囲
・ 設備機器ダクト接合部（石綿含有パッキン組込）		※ 図示 ○ 撤去範囲すべて
・ 石綿含有保温材付配管		※ 図示 ○ 撤去範囲すべて
・ 石綿含有配管フランジパッキン		※ 図示 ○ 撤去範囲すべて
・		※ 図示 ・ 撤去範囲すべて

※なお、石綿含有保温材付配管については、飛散のおそれ考慮し、一部レベル2の対応を図るものとする。

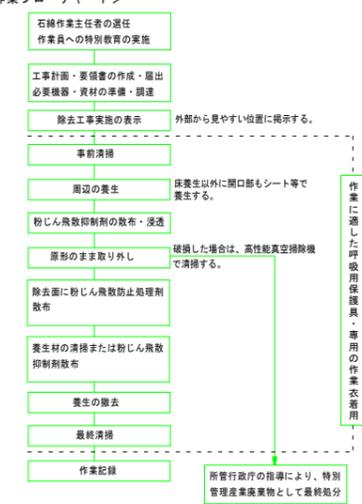
<参考>石綿使用有無の事前調査フロー



<参考>非飛散性石綿含有建材を除去する時の作業フロー

- 1 成形された配管保温材等を原形のまま取り外しによる除去（レベル2）
成形された配管保温材等の非飛散性石綿含有建材を原形のまま取り外す場合には、粉じん飛散の程度が比較的低いことから、薬液等による湿潤化を基本として、次のとおり除去する。なお、劣化し粉じん飛散のおそれのある場合は、石綿含有吹き付け材除去と同等の措置を講じる。また、作業中に事前調査により把握していない飛散性石綿含有建材が確認された場合には、直ちに作業を中止し、飛散防止措置を講ずるとともに、関係機関に通報する。

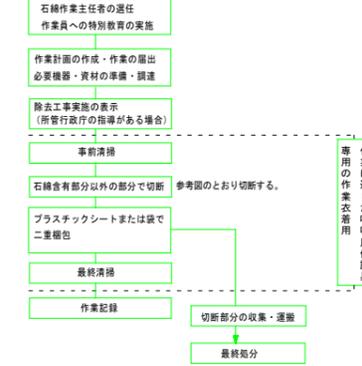
<作業フローチャート>



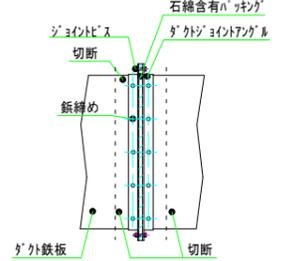
- 2 非石綿部での切断による除去【ダクトパッキン・配管パッキン】（レベル3）

建築物のダクトには、接合部に石綿含有物が使用されていることが多い。この場合、直接石綿含有物に触れるわけではないので、特定粉じん飛散のおそれがない場合には、大気汚染防止法の「特定粉じん排出等作業」には該当しない。なお、労働安全衛生法及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律については、石綿に関わる手続き等が必要。

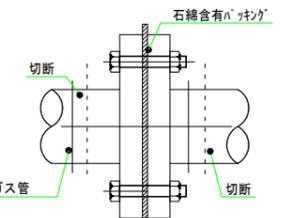
<作業フローチャート>



参考図1 設備機器ダクト接合部の除去方法



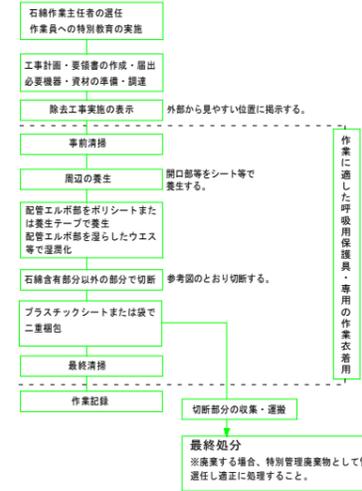
参考図2 配管フランジパッキンの除去方法



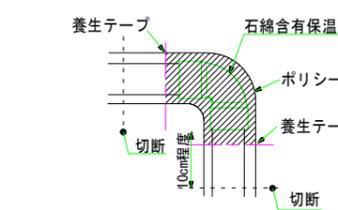
- 3 非石綿部での切断による除去【配管保温材】（レベル3一部レベル2）

直接石綿含有物に触れるわけではなく、レベル3で扱えばよいが、保温材等の劣化が見受けられる場合が多く、飛散のおそれがある。そこで、養生等について一部レベル2として取り扱う。ただし、石綿障害予防規則第5条の「作業届」が必要。

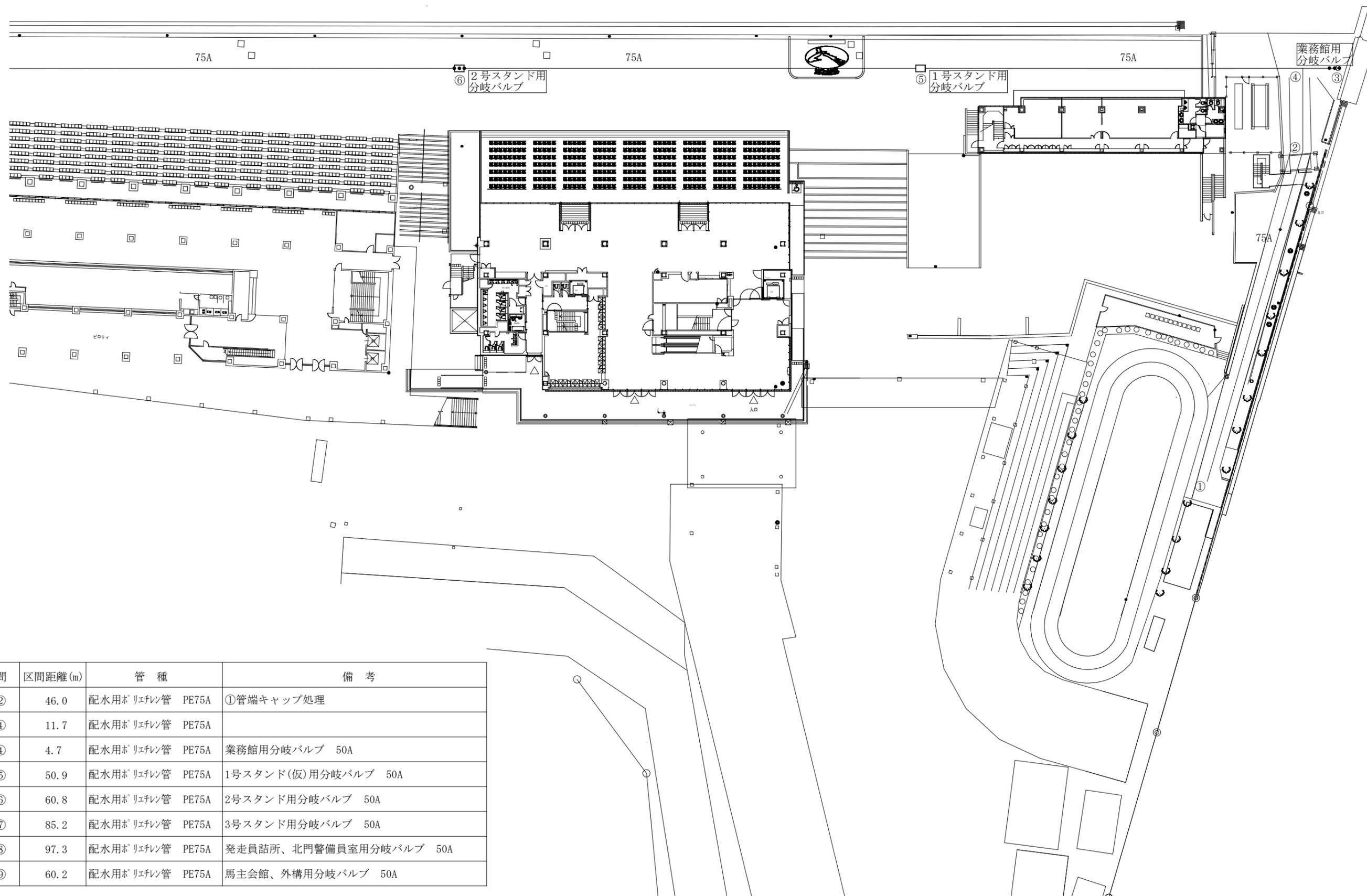
<作業フローチャート>



参考図3 石綿含有保温材付配管の除去方法

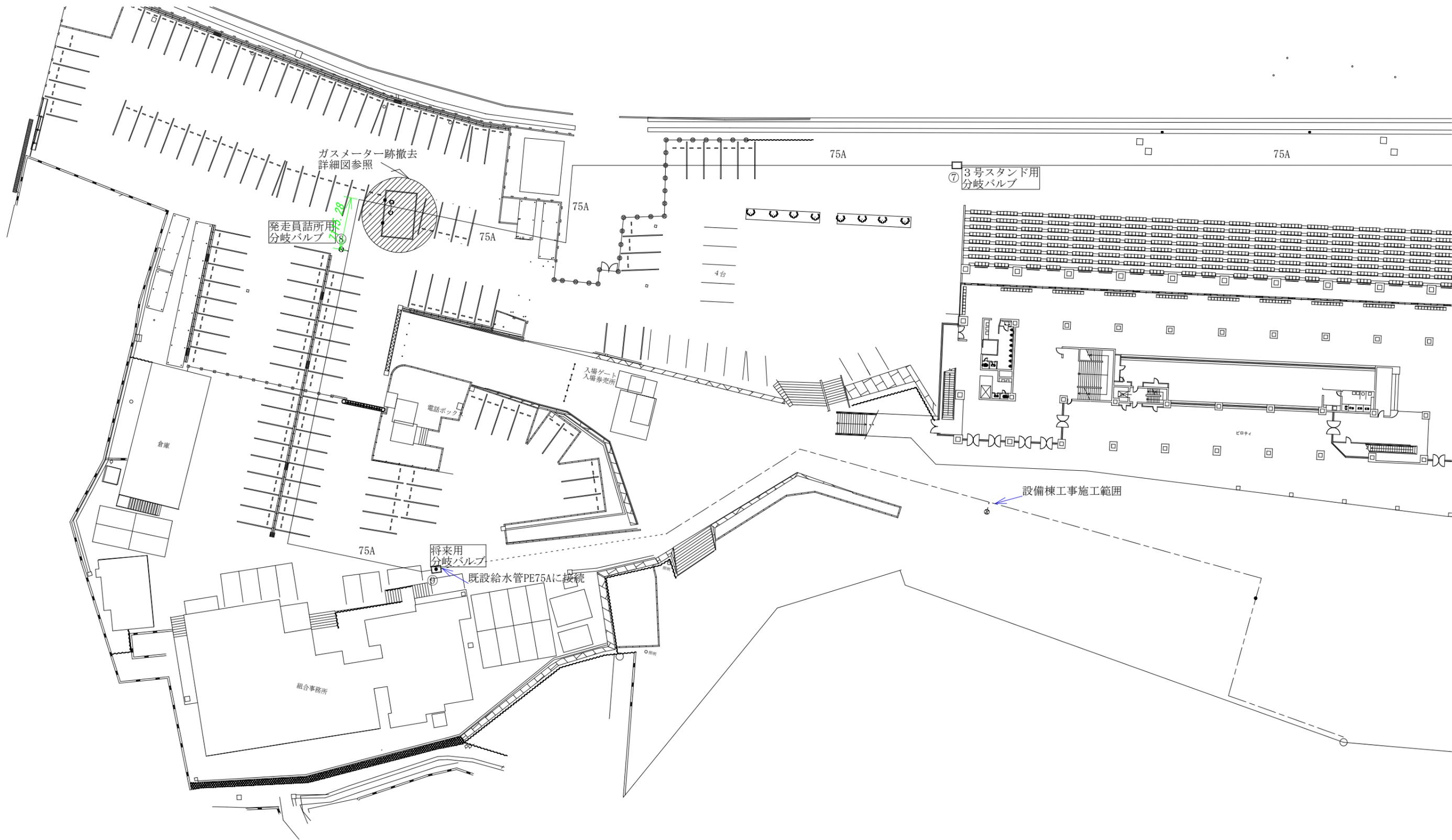


	設計年月日		埼玉県浦和競馬組合	課長	副参事	主査	主査	担当	縮尺	工事名称	図面名	図面番号
										浦和競馬場屋外給水整備工事	機械設備工事特記仕様書（3）	M-03



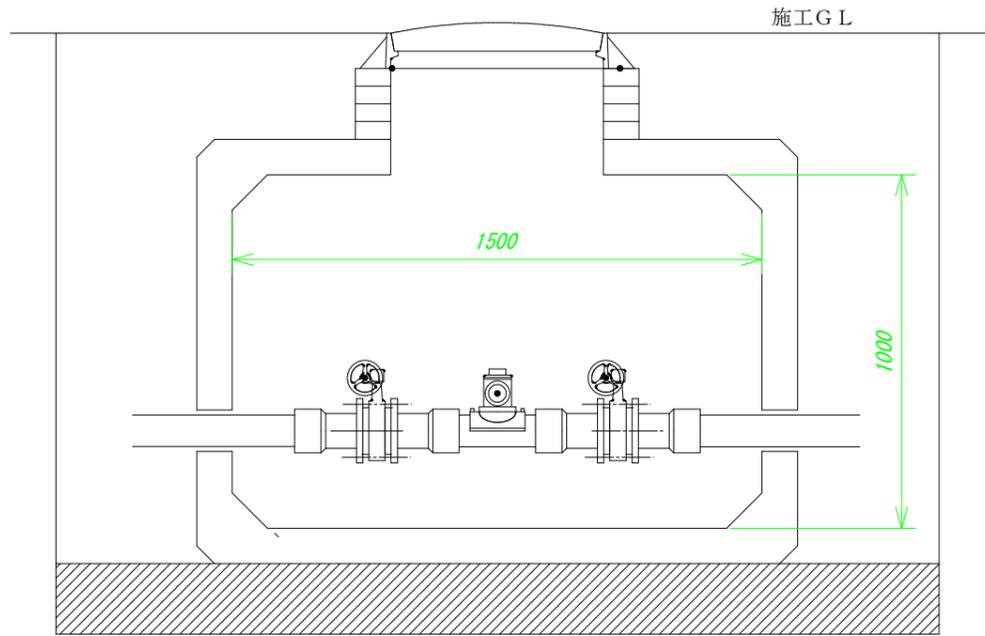
区 間	区間距離 (m)	管 種	備 考
①～②	46.0	配水用ホリエレン管 PE75A	①管端キャップ処理
②～④	11.7	配水用ホリエレン管 PE75A	
③～④	4.7	配水用ホリエレン管 PE75A	業務館用分岐バルブ 50A
③～⑤	50.9	配水用ホリエレン管 PE75A	1号スタンド(仮)用分岐バルブ 50A
⑤～⑥	60.8	配水用ホリエレン管 PE75A	2号スタンド用分岐バルブ 50A
⑥～⑦	85.2	配水用ホリエレン管 PE75A	3号スタンド用分岐バルブ 50A
⑦～⑧	97.3	配水用ホリエレン管 PE75A	発走員詰所、北門警備員室用分岐バルブ 50A
⑧～⑨	60.2	配水用ホリエレン管 PE75A	馬主会館、外構用分岐バルブ 50A

設計年月日	埼玉県 浦和競馬組合	課長	副参事	主 査	主 査	担 当	縮 尺	工 事 名 称	図 面 名	図面番号
								浦和競馬場屋外給水管整備工事	屋外給水管図(1)	M-04

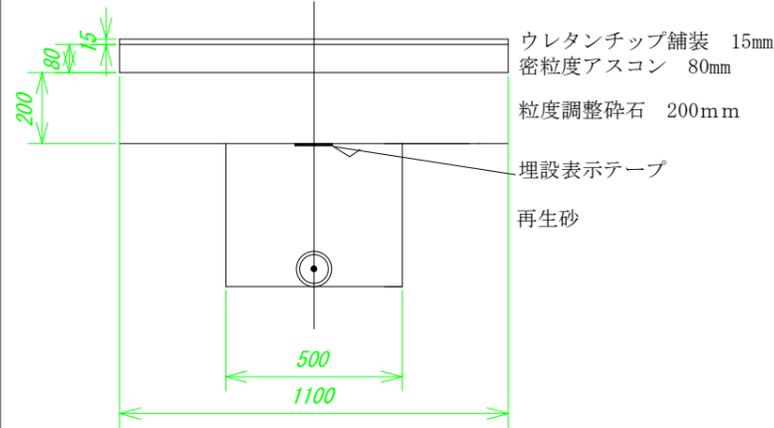


設計年月日		埼玉県 浦和競馬組合	課長	副参事	主査	主査	担当	縮尺	1/500	工事名称	浦和競馬場屋外給水管整備工事	図面名	屋外給水管図(2)	図面番号	M-05
-------	--	---------------	----	-----	----	----	----	----	-------	------	----------------	-----	-----------	------	------

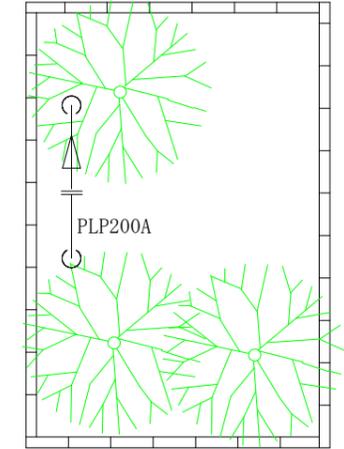
分岐バルブボックス (参考図)



給水管掘削標準図

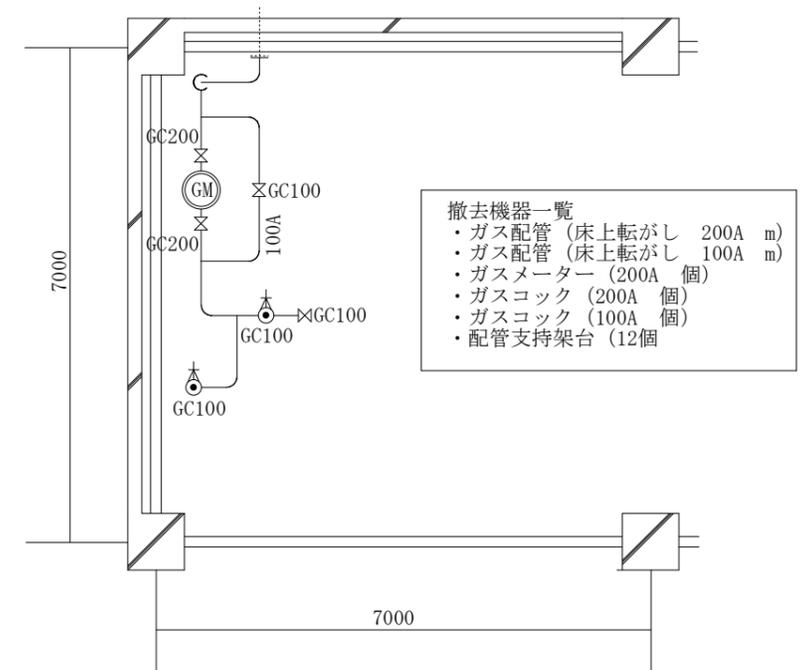


屋外ガスメーター跡撤去図



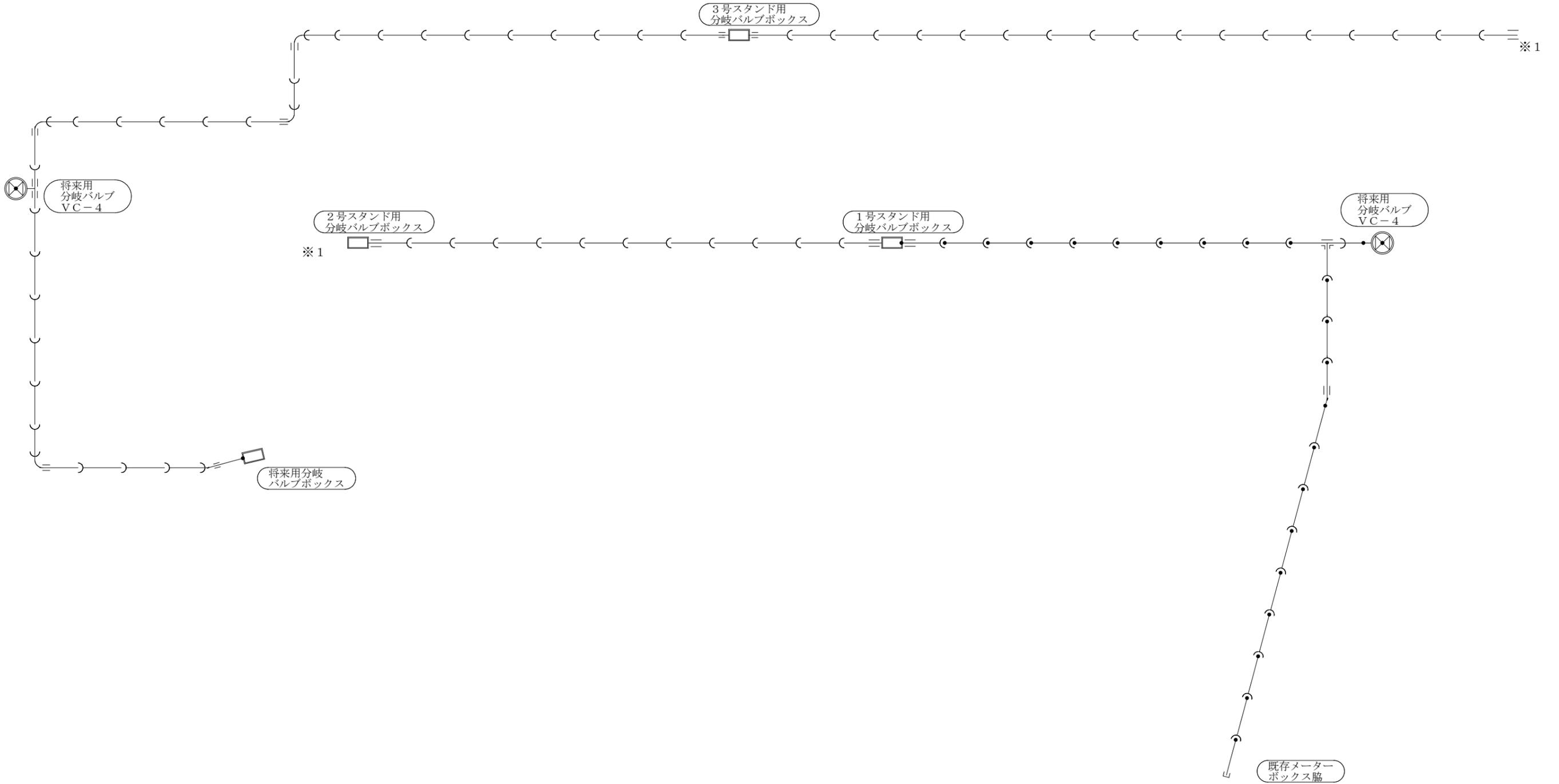
- ・フェンス撤去 (別途工事)
- ・境界ブロック撤去 (別途工事)
- ・アスファルト舗装撤去 (別途工事)
- ・植栽の伐採・伐根 (別途工事)
- ・アスファルト舗装復旧 (別途工事)
- ・フェンス内GL-1mのガス管撤去 (PLP200A3m, PLP80A3m本工事)

3号スタンド地下倉庫ガス管撤去図

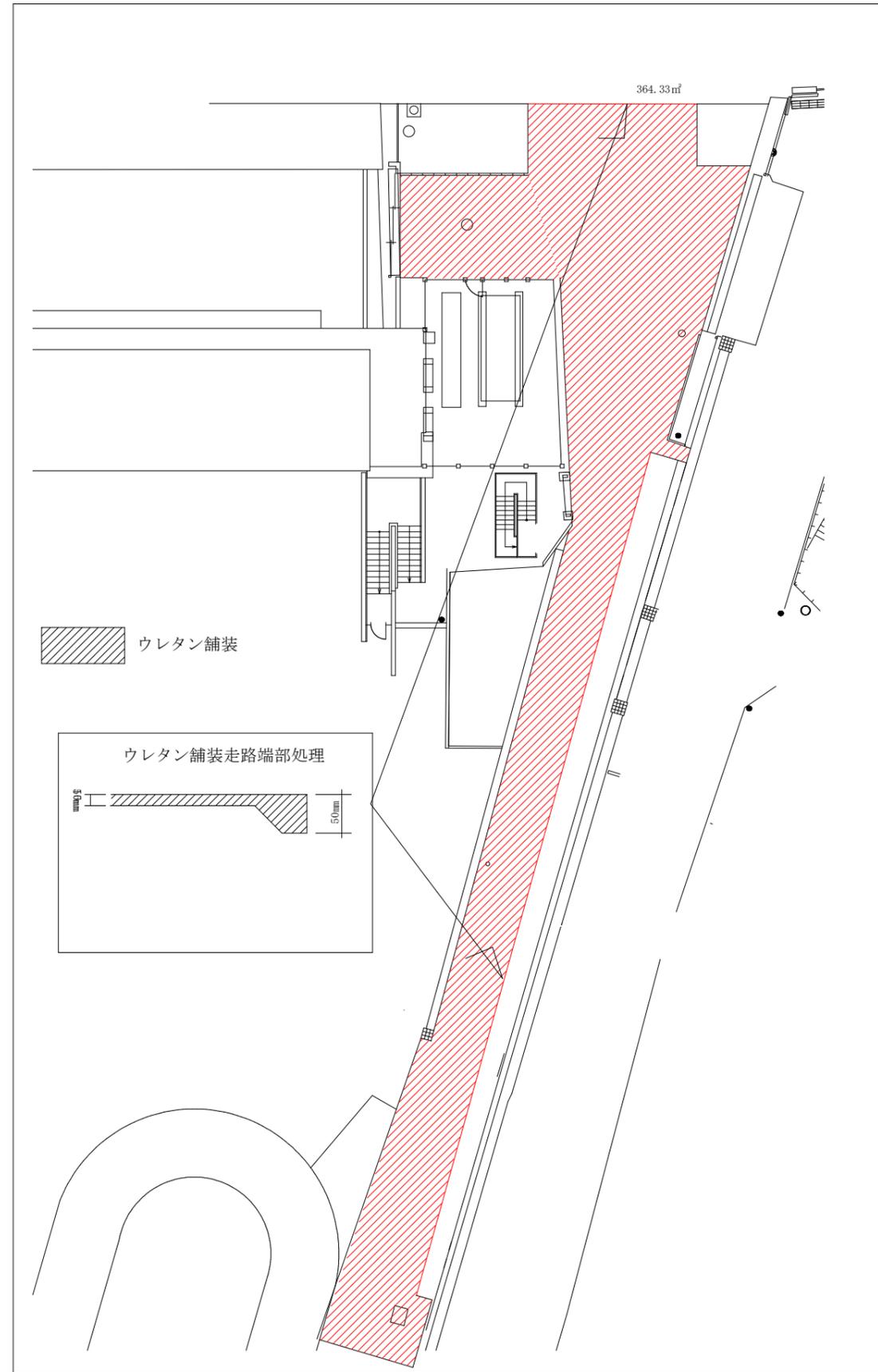
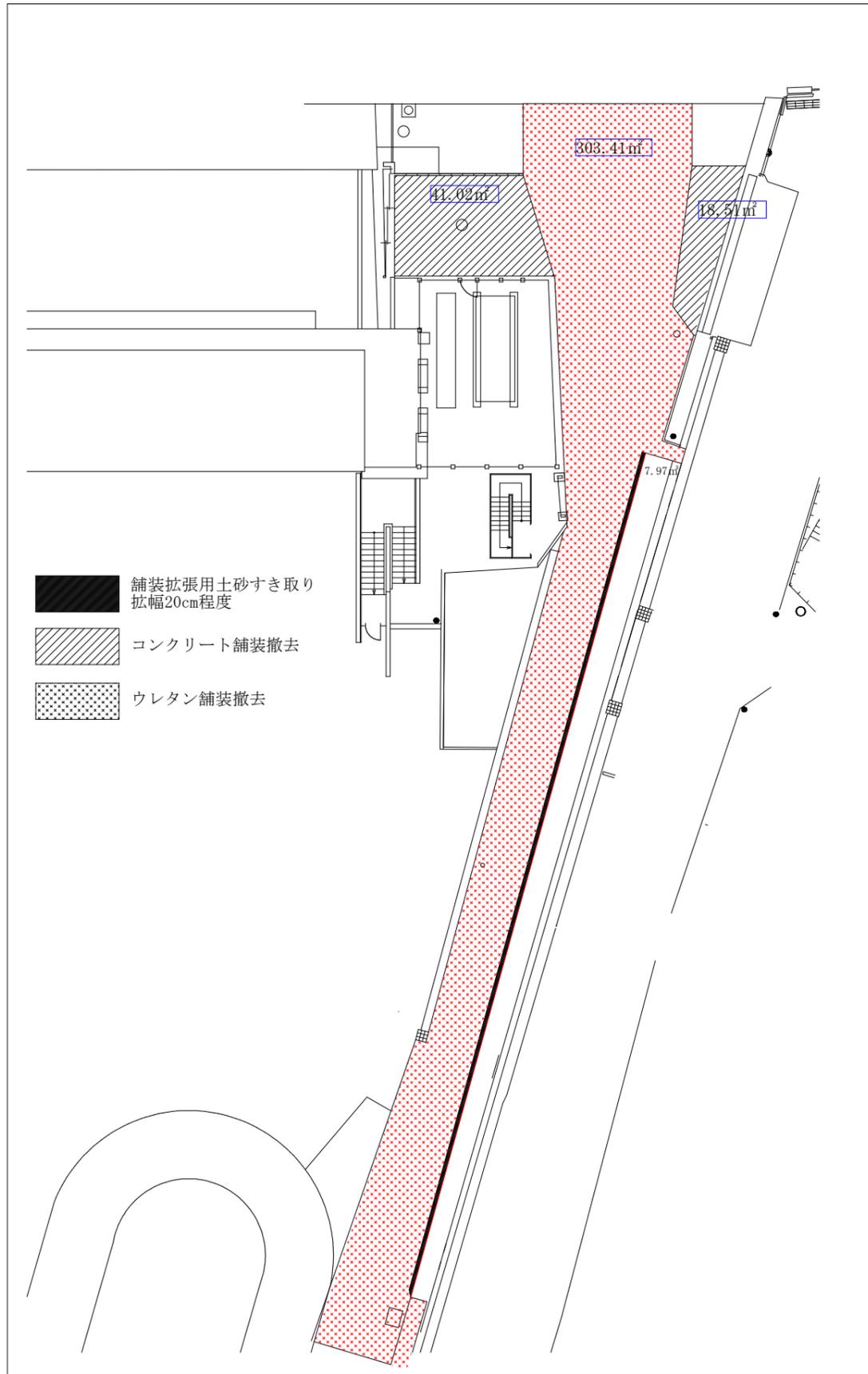


- ※1 PE管屈曲部はエルボによらず極力ベント管を使用すること
- ※2 本場開催に支障をきたさない用ブロック毎に回復旧すること。
- ※3 ベント管は、90度、45度、22.5度、11.25度を適時使用すること。
- ※4 ベント管が出来ないような僅かなR施工については、PE管を直接曲げて敷設することを可とする。ただし変形させる場合はメーカーが認めた曲率半径以上曲げないこと。

設計年月日	埼玉県 浦和競馬組合	課長 飛塚	副参事 石井	担当 中里	担当 丸山	縮尺 1/20	工事名称 浦和競馬場屋外給水管整備工事	図面名 バルブボックス・ガス管撤去 標準埋設図	図面番号 M-06
-------	---------------	----------	-----------	----------	----------	------------	------------------------	-------------------------------	--------------



	設計年月日		埼玉県 浦和競馬組合	課長	副参事	担当	担当	縮尺	工事名称	図面名	図面番号
								1/20	浦和競馬場屋外給水管整備工事	アイソメ図	M-07



	設計年月日		埼玉県 浦和競馬組合	課長	副参事	主査	主査	担当	縮尺	工事名称	図面名	図面番号
									1 : 300	浦和競馬場屋外給水管整備工事	ウレタン舗装	M-08